

スクリーウエイト貫入試験孔を用いた 迅速かつ高精度な地下水位測定法

スクリーウエイト貫入試験(SWS試験)直後の孔を利用した地下水位測定法。
SWS試験後の孔に有孔管を挿入し、交流式比抵抗水位計を用いて、迅速かつ高精度に孔内
水位を測定する。

認 定

●建築技術性能証明(GBRC 性能証明 第10-22号)

【特長】

- ①砂やシルト、粘性土地盤の調査において、深度10mまで孔内水位を測定できる。
- ②泥水の影響を受けない無水掘りのため、測定水位の信頼性が高い。
- ③SWS試験用ロッド(φ19mm)と同径の有孔管を使用するため、JIS規格で定められた試験装置を用いて地盤への貫入が可能である。
- ④測定には1cm目盛りのメジャーケーブルを採用し、高精度の測定ができる。
- ⑤直流式水位計では水の電気分解が発生し、安定した水位測定が困難であるが、交流式比抵抗水位計を採用することで、安定した水位測定が実現する。
- ⑥指針式アナログメーターにより、水位を見誤ることなく、正確な水位や水質の目安、塩分濃度の測定が可能である。

液状化判定における 地下水位の役割

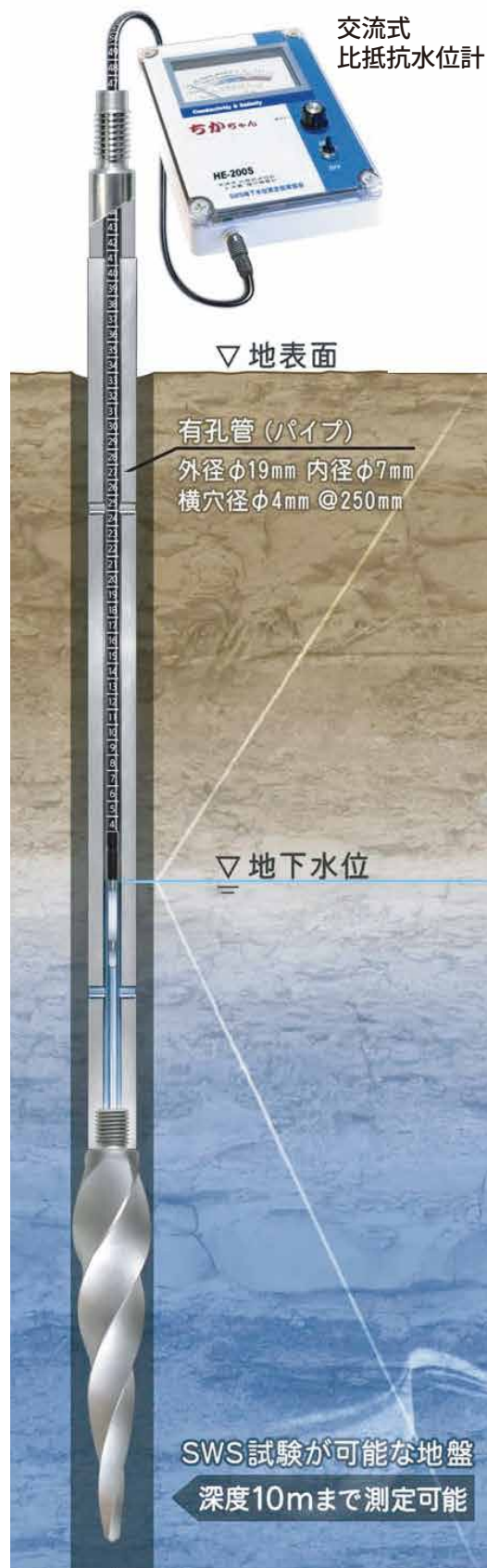
液状化の可能性が低い非液状化層は、粘性土層や地下水位が浅い砂層である。

そのため、地下水位を測定することは、非液状化層厚を確認する方法の一つである。

建築技術性能証明書



問い合わせ先



イメージ図